

## 茨城県家族会SH-60Kで秋の空へ

茨城地本（本部長・栗秋一空佐）は令和6年11月9日（土）海上自衛隊館山航空基地の支援を受け茨城県自衛隊家族会の体験搭乗を実施した。

体験搭乗に当たり、ブリーフィング室において基地の概要及びSH-60Kについて説明を受けた。SH-60Kは、対潜戦、対水上戦、監視・観測から災害時の輸送及び救難と幅広く運用され、参加者からは「Kは警戒のKですか？」「実際に任務に当たった際の大変さがありますか？」などの質問があった。質問には第21航空隊の操縦士が丁寧に答えをして、海上自衛隊の任務や航空機について参加者の理解を図った。

参加者は、安全教育を受けた後に秋晴れの館山湾に飛立った。参加者からは、「海の青と、空の青の間を飛ぶことができて貴重な体験ができた」「もっと揺れると思っていたが、ほとんど揺れを感じなく、日頃の訓練の成果」などの声が聞かれた。

体験搭乗の他に、管制塔見学、航空機・消防車見学及び資料館の見学を実施した。

航空機の見学では、実際に操縦席に乗ることができ家族会は、操縦席の内外から撮影をしていた。資料館の見学は、館山航空基地広報班から、海上自衛隊の任務や災害派遣での活動実績などの説明を受けた。千葉県での台風の被害にあった際、基地のお風呂と洗濯機を開放し被災者を受け入れていた事に対し家族会からは、「自衛隊がいる安心感や細かい配慮に驚いた。」「お風呂や洗濯以外に、スマホの充電や被災した人に本当に何が必要かを分かっている。過去の経験があるから被災者に寄り添える支援ができる。」「などの声が聞かれた。管制塔・消防車の見学では任務や仕事の大変さ、やりがいの説明を受けた。茨城県家族会会長からは、「休日」に家族会のためにこのような機会をいただいて感謝します。

今回家族会の中には、高齢者3名を連れて来ましたが、引き続き募集に協力していきたい。」と話していた。

茨城地本では、今後も家族会や部隊と連携し募集・広報活動を実施して、自衛隊に対する理解と信頼を獲得して将来の募集活動に繋げていく。



## JAXA筑波宇宙センター研修

茨城地本（本部長・栗秋一空佐）は10月28日（月）、入隊予定者2名とともに宇宙航空研究開発機構筑波宇宙センター「JAXA」の研修を実施した。

JAXAの説明員からロケットや人工衛星等の展示物について一つ一つ丁寧な説明を受けながら見学し、最新の技術や装備についても説明を受けた。その後、航空自衛隊からJAXAに派遣されている連絡官（福田防衛技官）から航空自衛隊における宇宙分野での役割や各種取組等の説明を受け、宇宙空間の安定的な利用の確保、他国との連携の重要性、スペースステーションの追跡等、今後航空自衛隊が担う宇宙領域の重要性について学ぶ良い機会となった。

入隊予定者は、他国との連携で使用する語学の必要性や、自衛隊の特技「宇宙」の重要性を肌で感じ、宇宙に対する思いを馳せながら入隊意欲を向上させ、JAXAを後にした。

茨城地本は、今後より多くの人材を確保するため、茨城県内外の募集資源を活用して、引き続き募集活動に邁進していく。

